

## かぼちゃ

———— 発病・加害時期  
 ===== 発病・加害最盛期

作型・病虫害名	月											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
普通			●	▲								
は種定植												
収穫												
べと病												
疫病												
うどんこ病												
アブラムシ類												
ハダニ類												

## べと病

### 留意事項

- 1 高温多湿を好み、露地栽培では雨が続くと多発する。
- 2 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、リドミルゴールドMZは、かぶれやすいので注意する。
- 3 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、リドミルゴールドMZに含まれる成分マンゼブの総使用回数は、2回以内なので注意する。

### 防除方法

- 1 降雨やかん水の際の水の跳ね上がりによって蔓延するので、敷きわらやポリフィルムでマルチングを行う。
- 2 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [ジマンダイセン水和剤](#)、[ペンコゼブ水和剤](#) <M3> 【600倍 21日/2回】
  - ・ [プロポーズ顆粒水和剤](#) <M5> <40> 【1000倍 7日/3回】
  - ・ [ダコニール1000](#) <M5> 【1000倍 7日/3回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ランマンフロアブル](#) <21> 【2000倍 前日/3回】
  - ・ [リドミルゴールドMZ](#) <M3> <4> 【1000倍 21日/2回】

## 疫病

### 留意事項

- 1 比較的高温（気温28～30℃）多雨で発生が多い。
- 2 ジマンダイセン水和剤・ペンコゼブ水和剤、リドミルゴールドMZは、かぶれやすいので注意する。
- 3 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、リドミルゴールドMZに含まれる成分マンゼブの総使用回数は、2回以内なので注意する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## 防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 床土は、新しいものを使う。
- 3 定植時、株元を高くして浸冠水を避け、排水に努める。
- 4 わらやポリフィルムでマルチングする。わらは、なるべく厚くし、うね間につるや果実が落ちないようにする。
- 5 肥料切れしないように肥培管理に注意する。
- 6 ウリハムシ、コオロギなどの加害部から発病することが多いので、これらの防除を徹底する。
- 7 被害株を早めに抜きとり、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 8 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [ジマンダイセン水和剤](#)、[ペンコゼブ水和剤](#) <M3> 【600倍 21日/2回】
  - ・ [プロポーズ顆粒水和剤](#) <M5> <40> 【1000倍 7日/3回】
- 9 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ランマンフロアブル](#) <21> 【2000倍 前日/3回】
  - ・ [リドミルゴールドMZ](#) <M3> <4> 【1000倍 21日/2回】

## うどんこ病

### 留意事項

- 1 SDHI剤<<7>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 2 ダコニール1000、ダコニールアルファに含まれる成分TPNの総使用回数は、3回以内なので注意する。

### 防除方法

- 1 チッソ質肥料の多用を避ける。
- 2 高温乾燥時に発病しやすい。また、生育後半に発病しやすい。
- 3 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [ダコニール1000](#) <M5> 【1000倍 7日/3回】
  - ・ [ダコニールアルファ](#) <M5> 【2000倍 7日/3回】
  - ・ [ベルコート水和剤](#) <M7> 【1000~2000倍 7日/4回】
  - ・ [フルピカフロアブル](#) <9> 【2000~3000倍 前日/4回】
  - ・ [プロポーズ顆粒水和剤](#) <M5> <40> 【1000倍 7日/3回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アフェットフロアブル](#) <<7>> 【2000倍 前日/3回】
  - ・ [トリフミン水和剤](#) <3> 【3000~5000倍 前日/5回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## モザイク病

### 留意事項

- 1 生育初期の感染による被害が大きい。
- 2 主なウイルスはキュウリモザイクウイルス（CMV）とズッキーニ黄斑モザイクウイルス（ZYMV）である。
- 3 汁液でも伝染する。

### 防除方法

- 1 苗床は寒冷しゃで被覆し、アブラムシ類の侵入を防ぐ。
- 2 アブラムシ類の防除に努める。（アブラムシ類の項 参照）
- 3 被害株は抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分する。

## アブラムシ類

### 防除方法

- 1 下記の薬剤を施用する。
  - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) < 4 A > 【2g/株 植穴土壌混和 定植時/1回】
  - ・ [ダントツ粒剤](#) < 4 A > 【1~2g/株 植穴処理土壌混和 定植時/1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アディオン乳剤](#) < 3 A > 【2000~3000倍 前日/5回】
  - ・ [コルト顆粒水和剤](#) < 9 B > 【4000倍 前日/3回】
  - ・ [ウララDF](#) < 2 9 > 【2000~4000倍 7日/2回】

## ハダニ類

### 留意事項

- 1 高温時に発生が多い。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ニッソラン水和剤](#) < 1 0 A > 【2000倍 前日/2回】
  - ・ [カネマイトフロアブル](#) < 2 0 B > 【1000倍 7日/1回】
  - ・ [モベントフロアブル](#) < 2 3 > 【2000倍 7日/3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用时には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。